

税金を身近に感じよう

宗像市立自由ヶ丘中学校3年 河野 響愛

私の父は、警察官です。税金からお給料を頂いて生活しています。以前、父が110番の通報の現場で、「この、税金ドロボーが！」と罵声を浴びせられたことがあると聞いたことがあります。果たして公務員や税金によってお給料がもらえている人たちは税金ドロボーと呼ばれても仕方ないのでしょうか。確かに公務員の給料は、みなさんの税金から支払われていますが父は一生懸命働いています。警察官として働く父の姿を直接見ることはできませんが、テレビの警察24時で父が特集された映像で、頑張っている父の姿も見ることができました。時々夜遅くに帰宅したり、夜中に突然の呼び出しがあり朝方まで帰らない時もあります。危険な現場で負傷し青アザをつくって帰ってきたこともあります。そんな事があっても、社会の安全を守るためにまた仕事に行きます。普段、当たり前のこと過ぎてあまり考えることはありませんが、私たちの生活は税金によって支えられています。税金がどのように役立っているか、あまりにも生活に溶け込んでいるので気付いていないことも沢山あると思います。私たち小中学生の義務教育、お年寄りの年金、医療費、災害時の復興費、など挙げるときりがない程でそれは全て税金で賄われているのです。もし、これらすべてを民間の事業として行う場合は、格差が生じ、平和で安心安全な社会を継続することは困難になってきます。警察の仕事が民間の仕事となれば、公平に職務執行をすることができなくなります。事件事故が発生した時にも、救助や犯人を捕まえたりすることもできなくなってしまいます。私たちが安心して生活できるのは、今の警察が公共の仕事だからだと思います。警察だけではなく、消防、学校の先生などその他のすべての公務員として働く方々の仕事が、公共の仕事だから安心して生活ができるのです。税金がなければ不公平な社会が生まれます。現在の貧富の差が少ない平等な社会があるのは税金のお陰なのです。そして、もう一つの課題として、現在の日本は少子高齢化が進み、私たち若い世代の負担が大きくなることも知りました。中学生の私は、まだ消費税しか納めていませんが、これから大人になるにつれ、納める税金はどんどん増えていきます。実際には「こんなに税金引かれて高すぎる。」とってしまうこともあるかもしれません。そんな時は、身近に警察官として安心安全な生活を守るために働いている父がいることや、周りを見ることで、私たちの生活は税金に支えられていることや物にあふれていることを思い出そうと思います。必ず今の生活は税金のおかげだと気付くはずです。中学生の私たちが大きな役割を担っており、社会に貢献しようとする姿勢が大切なことだと思います。私もその一員として、しっかりと社会に貢献できるような納税者になりたいと思います。